

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	神戸市立 青陽須磨支援学校 職・氏名 教諭 岸田 博子	研究チーム名 (青陽須磨支援職員研修)
-----------------	--------------------------------	--------------------------

研究テーマ分類番号 (8)

(1)研究テーマ	
個別の指導計画及び実態に沿って、支援の方法や教材・教具を工夫し授業改善を進める。	
(2)研究経過及び具体的な取組	
6月2日	各学部のテーマに沿って、具体的計画の検討
6月15日	授業研究1 (授業改善について具体的計画の検討)
6月29日	兵庫教育大学大学院講師 演題『授業改善の視点と具体的方法』 実施場所 神戸市立青陽須磨支援学校 (100名) 成果 ・昨年から見直している「個別の指導計画」の作成のポイントを押さえた。 ・子どもの実態把握から、子どものそれぞれの発達段階や習熟度、特性に応じた支援の方法についての視点が明確になった。 課題 ・学習活動の目標とそれぞれの子どもの活動目標の設定とをどのようにすり合わせるのか、具体的にどのような個別の支援をしていくのか。
7月7日	授業研究2 (授業改善について具体的計画の検討)
7月23日	授業実践の発表 - 個別の指導計画のねらいに沿って - 『発達支援の視点から授業改善へ』 兵庫教育大学大学院講師 演題『児童生徒の発達・障害特性に沿った教材・教具の発表』 成果 ・授業実践における課題が明らかになった。良い取組の視点や改善すべき点については具体的な取組の例から学ぶことができた。 課題 ・取組の焦点の当て方がぶれている、実態把握が十分でないなどが指摘された。個別の指導計画を授業という実践の場で生かすための課題分析の必要性が示された。
9月2日	授業研究3 (実践研究)
9月8日	授業研究4 (実践研究)
9月16日	授業研究5 (実践研究)
9月22日	中学部の研修発表 「音楽学習における類型別の学習内容とねらいを明確にした授業をつくる」 成果 ・類型別学習と全体学習(音楽集会)を組み合わせた授業形態が、授業に変化を与え、学習のまとめにもなった。 ・類型別のグループ学習は、子どもにあった教材選択がし易い。 ・全体学習では、いろいろな活動体験や他の子どもからモデルが示され、良い学習刺激になった。

- 課題 ・学習に取り組む意欲を育てるために、もっと子どもの興味に沿った教材の研究開拓が必要である。
- ・類型別のグループ編成により、軽度グループの教師の配置が少なくなり十分な指導支援ができなくなる。効果的な指導方法が必要か。
 - ・複合的な授業形態を進めるために、教材研究をさらに充実させたい。

9月30日 授業研究6(実践研究) 10月6日 ・授業研究7(実践研究)
 10月26日 授業研究8(実践研究) 11月15日 ・授業研究9(実践研究)
 11月17日 小学部研修発表

「教材の指導内容(観点)を明確にし、個々の児童の実態に応じた授業をつくる」
 成果 子どもの発達段階に沿った活動を設定していたため、見通しを持って生き生きと活動する姿が見られた。

発達段階に沿った教材は、児童の主体性を引き出し、子どもができることとできないことが確認できた。

PDCAサイクルで授業改善することにより、振り返りや改善に向けた検討が重ねられ、教師の意識が高まり授業に工夫が生まれていった。

課題 グループ活動の教具が大がかりになり、常設ができず設置に大きな手間がかかった。

教師の手が足りず、子どもの逸脱に気付かない場面が生じた。

新たに複数のグループ編成の必要性を感じたが、教師の配置を考えると難しく、実現できなかった。

11月30日 授業研究10(実践研究) 12月1日 ・授業研究11(実践研究)
 12月7日 兵庫教育大学大学院講師講演

演題『課題分析から、支援の方法と目標を考える授業づくり』

成果 ・課題分析とスモールステップ、スキルの分析との違いが明確に示された。
 ・学習集団と個別の指導計画との関係が再確認できた。
 ・適切な目標設定・効果的な授業づくりの基本は「実態把握」を、十分にまた、適切に行うことであると再確認できた。

課題 ・支援の方法を考える際に、課題分析とスモールステップ、スキルの分析を混同せずに行えるようになることが重要である。
 ・実態把握とそれぞれの授業の目標が十分に照らし合わせられていないことがある。個別の指導計画の作成は、それを行う過程である事を忘れないこと。

今後の予定

12月15日 ・高等部3年生研修発表
 「卒業後の生活支援・就労支援に結びつく力を養う授業をつくる」
 1月12日 ・高等部1.2年生コース制の研修発表
 「生徒の実態とコース目標から各コースの授業をつくる」
 2月16日 ・公開研究発表会(研修のまとめ)